

授業科目名・形態	倫理と人間	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	工藤英明	開講期	1年~2年後期	単位数 2

※福祉学科必修

【授業の主題と目標】

「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する。特に介護や看護、相談援助におけるCareを中心に倫理課題について対応できるための基礎となる能力や視点を養う。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション・国連等における人権宣言と世界の人々
- 第2回 日本国憲法における基本的人権と我々の生活
- 第3回 「人間の尊厳」とCare実践①
- 第4回 「人間の尊厳」とCare実践②
- 第5回 「人間の尊厳」と専門職の価値観・倫理観・・・①
- 第6回 「人間の尊厳」と専門職の価値観・倫理観・・・②
- 第7回 多様な人間観や自立（律）観
- 第8回 尊厳ある人生・生活
- 第9回 社会における人権問題①
- 第10回 社会における人権問題②
- 第11回 社会における人権問題③
- 第12回 高齢者の自立・自律生活
- 第13回 障害者の自立・自律生活
- 第14回 専門職の倫理とジレンマ
- 第15回 専門職と権利擁護

【授業実施方法】

講義

【教科書等】

特に指定しない

【参考文献】

必要に応じて紹介します。

【成績評価方法】

授業態度、課題を通じて評価します。

【学生へのメッセージ】

援助対象である「人」を理解するとともに、「Care」の意味を多角的な観点からともに考えていきます。

授業科目名・形態	生活と経済	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	李 廷 珉	開講期	1年~2年 後	単位数	2

【授業の主題と目標】

企業（会社）は人間の生活と密接な関係をもつ経済組織です。それゆえ、人間性を実現しつつも経済性（利益）を追求しなければ、継続して経営をしていくことは出来ません。どちらが欠けても、「良い企業（会社）」としては失格と言えます。本講義では、こうした現代企業の経営課題を検討する上で重要となるキーワードを中心に、「生活と経済を結びつける企業の役割と使命」について検討します。

【授業計画・内容】

- 第1回 企業と経営学（企業と社会、経営学、経済学と経営学）
- 第2回 経営学の発展（イギリス、ドイツ、アメリカ、日本）
- 第3回 世界の企業・日本の企業（大企業、日米企業の比較）
- 第4回 経営者の時代（経営者支配、株式会社革命）
- 第5回 企業倫理（人間性と経済性の向上）
- 第6回 企業目的（利潤最大化目的、企業維持拡大化目的、顧客創造目的）
- 第7回 企業戦略（環境と戦略、戦略策定と管理責任、ドメイン、競争戦略、垂直統合戦略、多角化戦略、環境と責任）
- 第8回 経営戦略の展開（ケース・スタディー）
- 第9回 経営戦略の展開（ケース・スタディー）
- 第10回 企業組織（組織と人間、伝統的組織論、人間関係論、近代組織論、条件適合理論、ネットワーク組織、バーチャル・カンパニー）
- 第11回 作業組織（経済性から経済性と人間性へ）
- 第12回 企業と文化（組織文化、文化の中の企業）
- 第13回 非営利組織の経営学
- 第14回 社会的企業という考え方（イギリス、日本、韓国）
- 第15回 21世紀型企業像とは何？

【授業実施方法】 講義形式

【教科書等】 毎回講義レジュメを配布します。

【参考文献】

- P. F. ドラッカー著上田訳『現代の経営（上）』ダイヤモンド社、2006年。
- P. F. ドラッカー著上田訳『現代の経営（下）』ダイヤモンド社、2006年。
- P. F. ドラッカー著上田訳『非営利組織の経営』ダイヤモンド社、2007年。

【成績評価方法】

出席と期末テスト、授業態度などを勘案し総合的に評価します。

【学生へのメッセージ】

授業科目名・形態	化学	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	奥野智且	開講期	1年~2年 前期	単位数	2

【授業の主題と目標】

化学は物質の構成単位（元素・原子・分子）とそれらの組み合わせ（化学反応）を理解し、物質を分析・創造して自然の解明や文明への利用を目的とする学問である。ヒトはエネルギー、医薬品、栄養、素材、生活用品等の化学物質を利用している。この授業では、化学の基礎を復習しながら、我々の生活や生命の仕組みに密着する代表的物質を取り上げ、現代物質文明を化学という学問領域から理解し、各自の教養となることを目的とする。

原子力および電池エネルギーの産生や有機化合物のプラスチック（ポリマー）・医薬品・栄養物および生物生産における遺伝子利用等と化学物質（分子）の関連・役割について学ぶ。

【授業計画・内容】

- 第1回 原子力エネルギーとは：原子・分子・元素の種類・放射性同位元素
- 第2回 ウランからどうしてエネルギーが生産されるの？・核分裂反応
- 第3回 原子力発電の仕組み・安全性・危険性と問題点
- 第4回 電池による電気エネルギーの生産：酸化・還元反応による電子移動・乾電池、燃料電池
- 第5回 太陽光や水素から電気エネルギーを作り出す太陽電池・水素燃料電池
- 第6回 プラスチックの種類と多様な機能・用途生活必需品とポリマー：多様な用途と化学合成の成果
- 第7回 プラスチックの化学合成、天然高分子と合成高分子
- 第8回 プラスチック廃棄物と環境問題
- 第9回 薬と化学：有機化合物の構成元素と部分構造・官能基
- 第10回 有機化合物の反応
- 第11回 西洋医薬・漢方薬、天然物から薬の発見・化学合成による薬の開発
- 第12回 ドラッグデザインとは、様々な薬（性ホルモン・鎮痛剤・麻薬）と化学構造
- 第13回 食品に含まれる元素・3大栄養物質（炭水化物・脂肪・タンパク質）
- 第14回 ビタミン・ミネラル、食品から得られる代謝エネルギー
- 第15回 食事の量と質、肥満と病気、世界の食料事情、食品保存剤

【授業実施方法】

講義

【教科書等】

最初の授業で説明

【参考文献】

「教養の現代化学」（三共出版）、「実感する化学」（上・下）（NTS）

【成績評価方法】

出席状況・小テスト・期末テストの総合評価

【学生へのメッセージ】

食品をはじめ、身の回りのすべてが化学物質である。化学を理解して安全に賢く、21世紀を生きよう

授業科目名・形態	家族論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	高橋和幸	開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題と目標】

核家族化による子育ての悩みの発生、高齢者世帯の増加による介護問題の発生、離婚の増加や非婚化の増加といったように、複雑化する現代社会では家族機能の縮小や弱体化が叫ばれている。その一方で、家族機能を補うため公的サービスや民間サービスを利用する機会も増えるなど、「家族像」が時代と共に変化していることがわかる。

とはいえ、家族が心の支えとなるなど情緒安定機能があるように、家族でなければ果たせない専門的な機能もあり、看護や福祉の仕事に携わる人たちはとくにこの機能に注目して援助をおこなう立場に置かれることになる。そこで、社会に対して、また個人に対して、さまざまな働きをしている「家族」を多角的にとらえる眼を養うことを目標に講義を展開したい。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 市民生活・消費生活場面における家族
 - 第3回 家族制度の歴史
 - 第4回 家族内での決定・権力・扶養
 - 第5回 夫婦関係(結婚)と離婚
 - 第6回 親子関係と児童虐待
 - 第7回 扶養・介護関係の変化
 - 第8回 家族機能①幼児期
 - 第9回 家族機能②学童期
 - 第10回 家族機能③思春期
 - 第11回 問題を抱える家族とは①一人親家庭、引きこもり、ニート、健康不安を抱える子ども
のいる家庭
 - 第12回 問題を抱える家族とは②障害者や要介護者のいる家庭
 - 第13回 福祉の観点からみた家族療法
 - 第14回 子どもの健康問題に対する親たちのとらえ方の違い～PTA 総会場面から～
 - 第15回 家族機能と低下と地域ぐるみの子育て支援
- 試験

【授業実施方法】

講義

【教科書等】

毎回プリントを配布して学習するため、テキスト購入の必要なし。

【参考文献】

その都度紹介する。

【成績評価方法】

(出席状況・レポート・小テスト) 50%と(定期試験成績) 50%の総合評価とする

【学生へのメッセージ】

定期試験は全ての授業内容から網羅的に出題するため、毎時間出席することが望ましい

授業科目名・形態	健康づくりと生活	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	池田 信子	開講期	2年 後期	単位数 2

※看護学科必修

【授業の主題と目標】

人々が日常生活、社会生活の中でより健康的な生活を推進するには、地域の住民と共に創り上げていくことが重要となる。公衆衛生学をとおして人々の健康が自然・社会・文化的環境と強く関わっていることを理解し、人々の生涯にわたる健康に関する諸制度、保健活動の組織的の進め方を中心に習得し、これからの公衆衛生を考察する。

到達目標

- 1) 公衆衛生の概念と基本的な内容踏まえ、健康と環境、健康の指標について理解する。
- 2) 感染症と予防、食品保健と栄養、生活環境の保全について理解する。
- 3) 医療制度、地域保健活動、母子保健、学校保健、産業保健について理解する。
- 4) 生活習慣病、難病、精神保健福祉について理解する。
- 5) 健康教育とヘルスプロモーションについて理解する。
- 6) これからの公衆衛生を考察する。

【授業計画・内容】

第 1 回 公衆衛生の概念と歴史について	第 9 回 母子保健について
第 2 回 健康と環境、疫学的方法について	第 10 回 学校保健について
第 3 回 健康の指標について	第 11 回 生活習慣病と難病について
第 4 回 感染症とその予防	第 12 回 健康教育とヘルスプロモーション
第 5 回 食品保健と栄養について	第 13 回 精神保健福祉について
第 6 回 生活環境の保全について	第 14 回 産業保健について
第 7 回 医療制度について	第 15 回 これからの公衆衛生について
第 8 回 地域保健活動について	

【授業実施方法】

講義

【教科書等】

教科書：「わかりやすい公衆衛生学」（ヌーヴェルヒロカワ）、
国民衛生の動向（厚生統計協会）

【参考文献】

「公衆衛生学」（医学書）

【成績評価方法】

試験、レポート、出席状況により評価する。

【学生へのメッセージ】

公衆衛生学は、社会生活と深い関係があり、新聞等マスコミ情報からの学習も重要である。地域看護学概論、地域看護関連科目、保健統計学、保健医療福祉行政論、社会福祉関連科目等にも関連が深いことから、双方向での学びを期待する。

授業科目名・形態	人間の成長と発達	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	成田 猛	開講期	1年後期	単位数 2

【授業の主題と目標】

人間は受胎から出生そして死に至るまで絶えず変化する。一般的には、この加齢に伴う心身の変化の過程を発達と呼んでいる。本講義では、この変化の過程について乳幼児期から成人後期までを詳しく解説する。また、このクロノジカルな全体性の中で、個別の時期の特性とその問題性を具体的に紹介する。受講生は、人間の発達が各発達段階において異なることを明確に知ることになる。

【授業計画・内容】

- 第 1回 乳幼児期 (0歳から1歳)
- 第 2回 幼児期前期 (1歳から3歳)
- 第 3回 幼児期後期 (3歳から6歳)
- 第 4回 学童期 (6歳から12歳) その1
- 第 5回 学童期 (6歳から12歳) その2
- 第 6回 思春期 (12歳から18歳) その1
- 第 7回 思春期 (12歳から18歳) その2
- 第 8回 青年期 (18歳から22歳)
- 第 9回 成人前期 (22歳から30歳) その1
- 第10回 成人前期 (22歳から30歳) その2
- 第11回 成人中期 (30歳から50歳) その1
- 第12回 成人中期 (30歳から50歳) その2
- 第13回 成熟期 (50歳から65歳)
- 第14回 成人後期 (65歳以上) その1
- 第15回 成人後期 (65歳以上) その2

【授業実施方法】

講義

【教科書等】

服部祥子著「生涯人間発達論—人間への深い理解と愛情を育むために」医学書院 2003、プリント他。

【参考文献】

必要に応じて紹介。

【成績評価方法】

出席および試験による総合評価。

【学生へのメッセージ】

臨床は時代をうつす鏡であるとよくいわれる。受講生は、各発達段階で提示されるさまざまな現象や事例を通して人間の不思議さを学習することになる。人間の心は複雑である。人間は、発達段階が異なれば、ものの見方、感じ方など違いが出てくる。最近の若い者はという言葉は、いつの時代にもあったことになる。